

フリーターやニートなど若者の雇用問題が深刻化する中、品川区の学習塾「エルムアカデミー」が昨年末、地域の支援を受けて地元でラーメン店を開店した。教室からラーメン店に学びやを移したユニークな取り組みとは。

ラーメン店厨房が教室

夢のせ一杯 人づくり

品川の学習塾運営

友人らと来た区内の主婦

「いらっしやい」二人連れの男性客が来店すると、女性店員の元気な声が飛んだ。

「塩ラーメン」。注文が決まると、厨房に伝え、小原祐二店長(三)が手際よく準備する。

東急線戸越公園駅前にある商店街に「麵処はるにれ」(3785)5815がオープンしたのは昨年十二月五日。カウンター、テーブルの計二十席、塩ラーメン、しょうゆラーメン(いずれも六百五十円)と一口ギョーザなどサイドメニューがある。昼は会社員ら、夜は家族連れや若者でにぎわう。

授業には自信を持っていた小原さんだがジレンマが



地域で支援「卒業生の受け皿に」

「お客さんへの思いやり、気配りを大切にしたい」と話すアルバイト店員の中込幸子さん



文・市川千晴／写真・稲岡 悟／紙面構成・松島英二

あった。就職氷河期も重なり、卒業生が働ける場になり定職につけない卒業生が増え、エルムの教育が社会で生かされなかったことに、もどかしさを感じていた。「結婚して子どもにも恵まれたが、家族を養うにはもう少しお金が必要だった」とも話す。

エルムに内証で、二〇〇二年から深夜にラーメン店でもアルバイトを始めた。そこで店の教育機能に目を見張った。「金髪やピアス塗るのバイトの若者が、一週間もする」「おはようございます」と元気いっばいで店舗展開し、食材工場を造る。

「はるにれ」は塾にちなみ「ジャパニーズ・エルム」の日本語から取った。最近、スタッフと客の間で笑いが起きることも増えた。毎晩、閉店後に反省会が接客の仕方を工夫しているからだ。

スタッフのフリーター中込幸子さん(三)は「これまでバイト先で失敗をすると怒鳴られ、失敗も重なり長続きしなかった。ここでは怒らず方向修正してくれる」。同じフリーターの郡理紗さん(三)も「ほかの人が普通にできる接客が、自分にはできない」と思っていたが、笑顔で接客できて自信につながったと声を弾ませる。

フリーターのピークは二〇〇三年度で二百七十七万人。政府は一〇年度までに、八割に削減しようとする若者の雇用支援策に力を入れる。「この店が、より多くの若者が社会参加できる入り口になれば」と小原さん。着実に成果を上げる同店の取り組みは、いいヒントになるかもしれない。



⑤「超有名店ではなく超優良店を目指したい」と話す小原祐二店長
④「はるにれ」は塾の名前「エルム」にちなむ。いずれも、品川区戸越で



添加物を一切、使っていないラーメンは女性にも好評